

令和4年度児童養護施設桑梓 事業報告書

令和4年度は複数の職員、児童が新型コロナウイルス感染。クラスターが発生したため、コロナ病棟とし対応。感染拡大を防ぎながらの支援となった。

4名の職員が休職となった。内2名が退職。2名は療養中となっている。

4年度に新規採用となった4名はもちろんのこと、多くの職員が残り、来年度も支援に当たってもらえる。外部研修はもちろん、園内研修での成果も少しずつ結果として表れ始めたと言える。

勤続年数が長い職員が増えることで、児童への支援体制が強固となり、児童の精神的安定も図れる。職員それぞれに明確な目標や福祉人材像をイメージさせながら育成を継続しながら、児童への健全育成に務めてまいります。

入所について

2月に4歳女兒1名の入所受入。

退所について

小学6年生女兒が中学進学を機に家庭引き取り。

措置延長中の専門学生が20歳の前日まで措置。アパート契約となった3月上旬に卒園し一人暮らし。更に1年同じ専門学校に通い、資格取得に励む。

年齢構成について

幼児6名（うち4名が認定こども園を卒園）

小学生15名（低学年8名、高学年7名。卒業4名。うち1名が家庭引取）

中学生4名（うち2名が児玉高校、深谷商業へ進学）

高校生5名（熊谷工業高校1名、寄居城北高校1名、児玉白楊高校3名、
うち1名が卒業。町内企業へ就職。3か月間の措置延長）

専門学校生1名（1月に措置解除、3月に卒園）

職員について

10月に統括主任が病気療養のため休職。

3年目女性保育士が休職中。

2月に男性指導員を中途採用。ぼたんに配置。

休職していた男性指導員2名が年度内で退職。

非常勤の看護師が年度末で退職。

事故報告提出について

令和4年度は4件の事故報告を提出する事案が発生。

- ・5月 本園ユニット カルミア 小学1年男児による転倒事故
- ・6月 本園ユニット コスモス 中学3年女児の自転車飛出による自動車事故
- ・7月 本園ユニット カルミア 小学4年男児による窓ガラスの破損とケガ
- ・12月 本園ユニット ぼたん 小学1年男児の小学校内でのケガ

県福祉部子ども安全課と各児童相談所長へ報告書の提出を行っております。

ヒヤリハットについては全80件、82項目の報告。

物品管理が25件 軽微なケガが24件 対応が20件 服薬が13件

・主な重大内容として

夜間、小4男児が専門学生の部屋に複数回入り浸る（職員・児童対応）

事務所の鍵の紛失（物品保管・管理）

業務使用のクレジットカードの置き忘れ（物品保管・管理）

分園トイレのドアノブ破損による児童の閉じ込め（物品保管・管理）

事務所の暖房器具消し忘れ（物品保管・管理）

昨年度49件あった服薬に関するものが13件と減り、意識的な取り組みにより改善が見られた。軽微なケガについては、自立のための体験活動の中で起きたものが多い。経験を重ね、習得することを大切にしております。

一方で職員の管理不足によるヒヤリハットは多く、重大事故に繋がり兼ねない内容も多かった。職員の気付きで防げた内容も多くあるので、児童の安心安全な生活のため、適宜、支援内容の見直しと不適切な支援の防止に努めてまいります。

令和4年度 事業報告

事業計画目標

- 職員育成
- 職員間連携体制
- 安全管理会議
- 生活進路会議
- 性教育会議
- 食育会議
- 代表者会議
- 中高生会議
- 子どもの遊びプログラム（なんでも大会）
- 地域に開かれた施設としての役割
- ホームページの充実と活用
- 地域との交流事業

具体的な事業目標に対する取り組み結果として

○職員育成

1 研修の充実

(1) 新任研修

令和4年度は女性指導員2名、女性保育士2名、中途採用で女性保育士1名、男性指導員1名の計6名を採用。入職時研修、ユニット会議等で研修を実施。

(2) 施設内研修

- ・OJTならびにOFF-JTの実施。

今年度より、2年目職員が新任職員を指導する取り組みを実施。先輩職員は自身が受けた指導を活かし、新任職員へ教育。不明確なことを明確化したことで、職員双方の成長に繋がった。

- ・ケースカンファレンスの充実を図る。

権利擁護ガイドブックを用いた施設内研修の実施。

ユニット会議にて児童支援の事例検討を毎月行った。

実際の児童支援の中で出された課題について検討。改善のために何ができるか、それぞれの立場で考え、施設の取り組み方を話し合った。

(3) 階層別会議

階層ごとに会議を開き、支援体制の強化を図った。

- ・主任会議 施設長、統括主任、主任。
運営方針を協議、決定。

- ・ケアリーダー会議 統括主任、主任、ケアリーダー。
支援方法や対応の仕方などを協議、指導、決定。
研修 ・自立支援計画策定等書類作成ポイント
・リーダー育成 ・PDCAサイクル
・リスクマネジメントと危機管理
・SVの役割 等

- ・ユニット会議 ケアリーダー、ユニット職員。
OFF-JTを意識し、職員が対応できる方法を全体で共有し、取組と評価を繰り返し行った。
研修 ・スモールステップ ・職員間連携 等

(4) 権利擁護勉強会

各分科会より、施設全体で学びたいこと、児童支援において必要なスキルの向上のための取り組みを行った。

安全管理…リスクマネジメントと危機管理（9月）

生活進路…進路指導（7月）

性教育…愛着障害（5月）

食育…ユニット調理（6月）

里親支援…里親制度（12月）

CAP研修…コミュニケーションスキル（1月）

○職員間連携体制

入所児童の健全育成のため、組織的・計画的かつ、柔軟な支援を実施。職員は常に児童への支援向上のために、連携に努めた。

7月と2月に施設内人事交流を実施。導入2年目のため多くの職員が昨年度よりも意識的に関わり方を工夫。交流により、自身のユニットでの取り組みに活かす、良い刺激となり児童支援の幅を持たせる機会となった。

風通しの良い職場環境のため、今年度も施設長を中心として職員面談を継続。またCL、ULとの職員育成面談も定期的を実施することで、現状と今後について共有することで、職員の孤立感を防ぐだけでなく、福祉人としてのこれからについても共有することで、自身のやりがいを刺激。

健全な組織運営の構築のため、風通りの良い人間関係を意識。報連相の徹底と指示系統の確認。日々の業務の中で、漏れが出ないように情報共有に努めた。

○安全管理会議

(1) ヒヤリハットの活用

ヒヤリハットを分析し、各ユニットへ発信。再発防止、重大化を防ぐ。

具体的な改善への

(2) 避難訓練

月1回の避難訓練と年1回の総合防災訓練を実施。火災・地震・不審者対応を実施。災害時に想定される状況下での避難訓練を実施。

(3) 常備薬、遊具の等の定期点検

定期点検により、適正管理の指導を行う。

(4) 防災用具の整備と確認

物品整備ならびに定期的に使用法の確認を行う。

(5) 手作り新聞の作成

児童の安全に関して適宜、情報を発信した。

・総括 ヒヤリハットを再発しないよう改善の動きに繋げて行きたい。

来年度はマニュアル作成に力を入れ、新任職員だけでも対応できるようにしていきたい。また消防署との連携により総合防災訓練、心肺蘇生法などの講習を受け、不測の事態に備えられるようにしたい。

○生活進路会議

(1) 自活訓練の計画、実施、評価

自立を控える高齢児を対象とした一人暮らし講座や調理体験を実施。

(2) 進路指導

高校進学について、近隣の学校紹介。

中高生勉強会では、就職、進学等について学ぶ機会を作った。

(3) 手作り新聞の作成

児童の進路や自活に関して適宜、情報を発信した。

- ・総括 来年度は児童から聞き取りした夢について支援する機会を増やす。
児童、職員も奨学金制度や支援団体について学ぶ機会を設ける。
児童の進路について、体験や経験談などの機会を設ける。
その中で、進路選択や資格取得など、学校選択について学び、児童の基礎学力の定着や学習意欲向上に繋げて行きたい。

○性教育会議

(1) 埼性研 報告・周知・検討

埼玉性的虐待研究会（埼性研）に参加し、各施設の性教育の取り組みを学び、桑梓での指導に取り入れていく。

(2) 誕生日を祝う色紙の作成

職員より『生まれてきてくれてありがとう』のメッセージを添え、渡す。

(3) 性（生）教育指導

洗髪・洗体の仕方など、子どもに身に着けてもらいたい日常的なものから、人との距離の取り方や関わり方など、実演して指導する。また、私の取扱説明書を作成。自己覚知だけでなく、他者のことを知ることで、より適切な関わり方を学ぶことができた。

(4) 手作り新聞の作成

児童の性に関して適宜、情報を発信していく。

- ・総括 来年度の活動は今年度を継続し、さらに取り組んでいきたい。
子ども向けの性教育を実施する。
自分の取扱説明書・赤ちゃんはどこから 等、休み中に実施。
児童の生活の思い出である写真撮影の普及と適切保存。

○食育会議

1) 行事食企画

年中行事の際の献立を考え、児童に提供。

(2) 児童の調理参加

日常的に調理経験を積むことで、食事の大切さを学ぶ。

(3) 調理メニューの提案と実践

児童が自立した後を考えて、手軽に作れるメニューや食材から作れるメニュー案をユニットに提案。日常調理で実践することで、児童の調理スキルの定着や向上、経験する機会に活かす。

(4) 手作り新聞を作成

児童の食に関して適宜、情報を発信していく。

- ・総括 どのユニットも児童と楽しんだ調理体験を実施することが出来た。
また、お箸の持ち方練習会も開催。良い姿勢で食べる指導も行う。
旬の食材や安い食材を取り入れたメニューや苦手なものにチャレンジするメニューなど、更にレベルアップを図りたい。

○代表者会議

CLを中心に定期的に実施。児童からの意見を吸い上げて、施設全体で協議する機会を作る。児童が主体的に生活を考える中で、児童の権利を尊重し、共に生活を作っていくことを今後も大切にしていく。

○中高生会議（中高生勉強会）

中高生だけを集めて、卒園後の生活を具体的にイメージする前段階の学びの機会を作る。施設生活で守ってほしいルールについて、みんなで考えたり、職員の想いを伝えることで、相互の権利を尊重した生活を送ることを大切にしていく。

○子どもの遊びプログラム（なんでも大会）

月1回を目安に実施。参加賞や優勝賞品も用意し、子どもたちが楽しく参加することができた。

ゲーム大会 ウォークラリー 水遊び大会 ナイトウォーク
ハロウィンナイト（肝試し） 20周年祭（秋祭り）
グラウンドキャンプ体験 初日の出登山
卒園卒業を祝うフォトムービー上映会 など

○地域に開かれた施設としての役割

施設グラウンドに芝を植え、緑地化。入所児童だけでなく、地域の方々にも利用してもらう事で、地域に広く施設の存在を知ってもらう。

○ホームページの充実と活用

ブログでの情報発信を行い、入所児童の生活が分かる内容を発信。今後も桑梓に興味を持ってもらい、人材の確保にも繋げていく

○地域との交流事業

今年度も、感染症予防対策のため、交流事業が縮小、中止が多かった。そのなかでも、収束を見据え、施設内で軽微なプログラムを計画、実施し、経験することができた。

また多くの有志の方々のご支援により、様々な体験プログラムに参加。ご寄付も頂戴した。

本庄夏祭り めだかすくい とうもろこし収穫体験 むさしの村招待
ハロウィン仮装行列 七五三撮影会 お笑いライブ クッキー作り
一人暮らしご飯作り体験 サンタライダーズ訪問 スポーツ観戦
クリスマスゲームパーティー 子ども食堂招待 など